

しのだ洋司 後援会だより

美祢活力宣言!!

ごあいさつ

平素より後援会活動にご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

市内外の各方面から美祢市の現状を心配する多くのお声をいただいておりますが、ただ、現実の困難を嘆いていても何も変わりません。また、地域に暮らす私たちにとって、将来を見据えて、しっかりとした地域づくりを進めていくことが、自らの暮らしを守り、地域を支えることになると信じています。

超高齢・人口減少が進む時代を迎え、「絶望の時代」と考える人も多い中、私はこのような歴史の転換期こそ、希望と、いい意味の楽観主義を携えて進むべきと考えています。

より良い地域づくりのため、次世代を担う子どもたちのために、全力で取り組んで参る所存ですので、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

篠田洋司プロフィール

昭和38年11月 美祢市伊佐町生まれ
山口県立大嶺高等学校、京都産業大学経営学部を卒業
昭和63年4月 美祢市役所入庁
平成20年3月 美祢市立病院事務長（その他の経歴）
平成25年4月 市長統合戦略局長
平成27年6月 美祢市副市長就任

（その他の経歴）

美祢市野球連盟顧問
全日本軟式野球連盟公認審判員
（元）大嶺小学校PTA会長

後援会長あいさつ



河村達丸

しのだ洋司後援会会長に就任しました河村達丸でございます。

後援会の皆様には、平素から格別のご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

私と篠田さんとの出会いは、私が社会福祉協議会のコーディネーターとして勤め、彼が市福祉事務所の職員の時でした。地域福祉の向上のため一緒に汗を流し、以来、約三十年親しくお付き合いをさせていただいています。

篠田洋司さんは、美祢市を愛する郷土愛、「正義感」、そして何よりも人への優しさを豊かに持った人物です。

彼なら、あらゆる世代の方の目が輝くまちを実現してくれると信じています。

私たち後援会は、支援の輪をさらに広げ、篠田洋司さんの活動を支えていきたいと考えています。皆様のさらなるご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

活動報告

●「第1回 まちづくり講演会」を開催！

6月23日、美祢市商工会において「まちづくり講演会」を開催しました。

講師は、宮崎義敬氏で、「市民発！まちづくり」とは（歴史から学ぶ「まちづくり」）と題してご講演をいただきました。

同氏は、昭和45年、山陽無煙を中心とした一連の炭鉱閉山により、苦境に立つ美祢市の現状を認識し、「明るく豊かな郷土づくりを目指して、市民連帯の意識を高め、善意と奉仕に基づく市民運動を進めたい」と立ち上がった方です。

講演では、「厚保くり」の産地化への取り組み、公民館での各種講座開催などのご経験から、住民の連帯感の醸成、相互扶助と相互規制のバランスで成り立つ社会秩序の必要性、今の環境でよりよく生きることの大切さなどの話があり、参加者72名、充実した講演会となりました。

「まちづくりの第一歩は地域の歴史を知ること！」藤山浩先生（一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所所長）からアドバイスをいただきました。真っ先に頭に浮かんだのは宮崎先生でした。先生には快く講師をお引き受けいただきありがとうございました。



● 江口よしあき(福岡県議会議員)講演会を開催！

現福岡県議会議員の江口よしあき氏にご講演をいただきました。

同氏は、九州朝日放送を25歳で退社。その後久留米市議会議員を経て、現在福岡県議会議員（2期目）。

専業農家の祖父母に育てられ、その恩を何らかの形で返したい。「自分のためではなく人のために生きる」。それが政治家を志した原点であるという感動的な講演会となりました。



東厚保町にある「恩愛の碑」清掃活動



当日は、市内外から多くのボランティアの皆さんが参加されました。市内の史跡が皆さんの力で守られています。ありがとうございました。

伊佐中学校での「市民講座」を受講



伊佐中学校で、市民の皆さんに学校を開放し、各講座を通して学校の授業を楽しんでいただく「市民講座」がありました。画期的な取り組みで、楽しく受講できました。

上野地区夏まつり



市内各地域で夏まつりが開催されます。「まつり」は地域の絆を深めます。お世話いただいた皆さんありがとうございました。

集落での環境保全活動



市民社会総参加活動



テーマ：美祢市の財政を考える！

・多くの住民の方とお話しする中で、いったい美祢市の財政はどうか？将来大丈夫なのか？といった意見が寄せられています。今回、一般会計の財政状況を見る場合の視点を中心にまとめてみました。

・ 多くの人の疑問

自分たちのまちの財政状況について知りたいんだけど・・・

結局、私たちの市の 財政はいいの？
それとも悪いの？

何を見たら 分かるんだろう？

この先、行政サービスは どうなるの？



・ 財政状況を見る場合の視点

- ① **赤字**があるかないか。
- ② **貯金**があるかないか。
- ③ **借金**が他と比べて多いか、少ないか。

赤字とは

入ってきた額（歳入）より、使ってしまった額（歳出）が多い場合、それが赤字です。「入ってきたお金の範囲内でしか、支出してはいけない」ということは地方自治体の財政に関する大原則です。

勝手に税金を課したり公共料金を値上げしたりすることはできません。法律や条例に基づく範囲でしか収入できません。赤字があるということは、その範囲を超えて支出してしまったということです。

また、ひとたび赤字が生じた場合、その解消は簡単ではありません。なぜなら、赤字を解消するためには、翌年の行政サービスを削るなどして収支均衡を図る必要があるからです。

美祢市の平成29年度一般会計決算では、実質収支が約6億6千万円となっており、赤字は生じておりませんが、予算編成段階で約9億円の基金を繰り入れたり、他会計への繰出し金が増加傾向にあるなど財政状況は悪化傾向にあります。

(平成29年度美祢市一般会計決算書)

歳入	歳出	歳入歳出差引額	翌年度に繰り越すべき財源	実質収支
A	B	A - B	C	C - D
17,696,091	17,028,414	667,677	3,353	664,324

貯金とは

市にも貯金があります。市の貯金は「基金」と呼ばれます。家庭でも、子どもの教育費に充てる目的で貯めている貯金や毎月のやりくり用に貯めている貯金などあるように市町村の基金も大きく次の種類に分けられます。

- ① 特定目的基金 — 教育なら教育など特定の目的のために積み立てられる基金
- ② 財政調整基金 — 毎年度のやりくり用に積み立てている基金
- ③ 減債基金 — 将来の借金（地方債）返済用に積み立てている基金

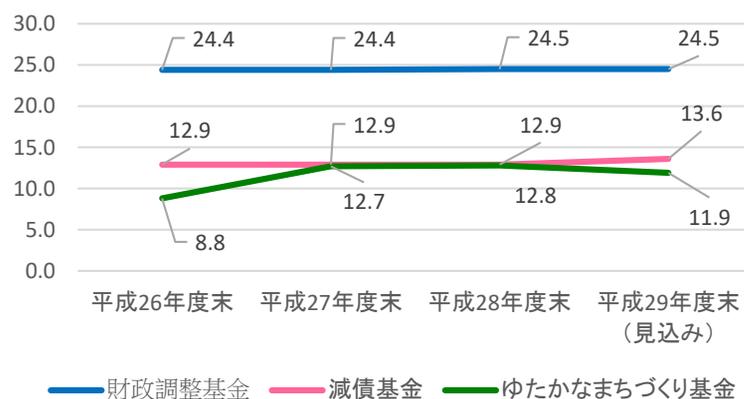
貯金があれば、歳入が落ち込んだときでも、赤字を出さずに行政サービスができます。将来予定されている支出に備えることができます。基金なしで安定的な行政運営を行うことは難しく、一定額の基金は市町村にとって不可欠です。すでに使用目的が決まっている「特定目的基金」より、やりくり用の「財政調整基金」や「減債基金」を多額に持っている方が財政的には安心です。

ただし、毎年基金額が減っている場合は注意が必要です。

美祢市の場合、ある程度の基金が確保されている状況にあります。しかし言い方を変えれば、近年基金に積めていない状況にあると言えます。

単位：億円

基金残高の推移



(平成29年度県内市町の実質公債費比率)

下 関 市	10.0
宇 部 市	6.3
山 口 市	4.4
萩 市	7.6
防 府 市	3.0
下 松 市	1.2
岩 国 市	6.9
光 市	10.0
長 門 市	8.7
柳 井 市	10.3
美 祢 市	14.0
周 南 市	7.9
山陽小野田市	9.8
周 防 大 島 町	11.5
和 木 町	7.7
上 関 町	10.2
田 布 施 町	12.7
平 生 町	13.7
阿 武 町	0.0
市 平 均	7.4
町 平 均	10.4
県 内 平 均	7.6

(山口県市町課公表資料)

借金とは

市にも借金があります。市町村の借金は「地方債」と呼ばれます。

市町村も借金をするときには、基本的に建物など将来にわたって資産価値があるものしか借金してはいけません。

すなわち、職員の給料やイベントへの補助などに使うために借金することはできないのです。

借金ほどの程度までOK?

将来世代も使えるようなものを建てる時には、世代間の公平の観点から、借金をして建て、現在世代だけでなく、将来世代にも負担してもらうことが基本的な方法になっています。

そのため、どの市町村にも借金はあります。借金額が少ない方が望ましいことはもちろんですが、どれくらい借金があったら財政状況が悪いという絶対的な基準があるわけではありません。

そうしたときに役に立つのは他の市町村との比較です。同じ地方自治・地方財政制度の下でやってきたにもかかわらず、他の市町村の平均的な借金額より、相当程度借金額が多い市町村においては、将来行政サービスが削られる可能性があります。

また、借金返済の観点から、人口動向にも目を向ける必要があります。人口が増える市町村と人口が減っている市町村では借金額の重みが違うからです。

右の表は県内市町の財政規模に対する公債費の比率で、県内で一番高い状況にあります。参考までに、18%以上だと、新たな借金をするためには国や県の許可が必要になり、25%以上だと借金を制限されます。

まとめ

美祢市の財政構造は、人口減少や地方交付税の逡減など今後の歳入確保が難しくなることが予想されます。歳出面においても他会計への繰出し金が増加傾向にありますし、庁舎などのインフラ整備に多額の費用が見込まれています。

地方創生の取り組みで注目されている島根県海士町、福島県矢祭町は、財政改革を断行することで地域活性化を図っています。美祢市において、財政構造を改革し、子育て支援、若者への施策、あらゆる世代の方が安心して暮らせるため、そして、過度な借金(起債)を次世代に残さない取り組みが求められているのではないのでしょうか?